

農業経営部会通信

今月の例会報告

第4回会員交流会を81名で開催～部会メンバーの食材に舌鼓～

5月25日(金)、第4回会員交流会を81名の参加者で開催しました。今年で4回目を迎え、毎年、部会メンバーの食材を持ち寄った懇親会を開催しています。普段は勉強会が中心で、加えてカテゴリ別の深掘りしたテーマの例会のため、例会の平均参加人数は30名弱です。この会員交流会は、農経部会の年間の会合の中でも最も人数が集い、会員を始め行政・外部団体の方も交えて大いに交流を図っています。

懇親会には、担当幹事が自ら声がけて集めた部会メンバー25社の食材を使用した料理11品とドリンク2種が並び、参加者は舌鼓を打ちました。

また、今年度の例会計画の発表や新入会員スピーチ、30周年事業の告知を行い、2018年度のスタートダッシュをきる交流会となりました。



第30回定時総会

4月5日(木)、第30回農業経営部会定時総会が65名の参加で行われました。定時総会では、2017年度の活動報告、決算報告、2018年度の方針、予算を決議しました。部会長は、17年度に引き続き、前田農産食品(株) 前田茂雄氏を選任しました。

記念講演は、部会幹事でもある株式会社ファームノート代表取締役 小林 晋也氏が「帯広から世界へ。ファームノートの挑戦と経営の考え方」をテーマに講演。

酪農・畜産向けのクラウドサービスを提供する同社は、帯広に本社を置きながら全道・全国へと幅広く展開しています。講演では、「産業はDestruction(破壊)の繰り返し。トラクターが導入されたことで既存の人手や馬は不要となった。皆さんは破壊する側、破壊される側のどちらになりますか?」と問いかけ、「破壊する側(成長進化する側)になることのお手伝いをするのがファームノートの仕事」であると語りました。



30周年記念事業準備進む

1989年3月、全国の同友会で初めて農業に関する部会が設立されたのがとかち支部(当時:帯広支部)の農業経営部会でした。2019年の設立30周年に向けては2本の柱で準備しています。

①十勝毎日新聞社様との連携による情報発信事業(部会メンバーを同社記者が取材し勝毎電子版コンテンツ内で紹介する連載企画)

②第14回全道農業関連部会交流会inとかちの誘致(2019年7月12～13日開催)

情報発信事業は今年の7月1日掲載スタートに向けて動き出しています!

今後の予定

● 農業経営・法人化グループ6月例会

現在「農業法人」は全国で約27,000社、道内では約3,500社にのびます。近年は、北海道でも年間100近い法人が設立されています。

今回は、金融機関から見た法人化のメリット・デメリット、農業融資における金融機関の審査のポイント、金融機関から見た「良い会社」の判断基準などをお話いただきます。

テーマ/金融機関から見た農業法人のメリット、デメリット
報告者/北海道銀行 音更支店 支店長 中島 英利氏

日時: 2018年6月20日(水) 19:00～21:00

場所: 同友会事務所(帯広市東2条南5丁目1)